

HONDA

株主通信

特集

中国のお客様の期待に応えるHondaの新しいクルマづくり
第90回定時株主総会のご報告



季刊

2014

No.162

株主の皆様へ



株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

今年2月、メキシコで、Hondaの新しい四輪車工場が稼働を開始しました。新工場は、埼玉製作所寄居工場でつくりあげたHondaの最新生産技術をベースに、人の技術・技能を融合させることで高い生産効率を実現しています。現在は北米仕様の「FIT(フィット)」を、今後はスマートSUVの生産も開始する計画です。

また、中国ではHonda初の中国専用車である新型「CRIDER(クライダー 中國語名:凌派)」をはじめ、現地の開発機能を活かしたクルマづくりを加速させています。今後は、ハイブリッド車やアキュラブランド車の現地生産も行う計画であり、中国での開発・生産体制についても一段の拡充を図っていきます。

Hondaでは、いま、北米や中国はもとより、世界各地域でものづくりの体制の進化に取り組んでいます。よりお客様に近いところで、変化やニーズにスピーディーに対応できる体制をつくることで、「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」ことを実現し、持続的な成長をめざしていきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

2014年 8月

取締役社長 伊東孝紳

中国のお客様の期待に応える Hondaの新しいクルマづくり



中国市場向け専用開発のコンセプトモデル「Concept B」のデザインスケッチ



(左)2014年北京モーターショーで挨拶するHonda役員 (中)広汽ホンダ「CRIDER」の生産ライン (右)東風ホンダ「CIVIC」の生産ライン

世界最大の自動車市場である中国。2013年の自動車販売台数は2,000万台を超え、全世界の約1/4を占める規模となっています。Hondaは、1999年に広汽本田汽車有限公司(以下、広汽Honda)で現地生産を開始して以来、2004年には東風本田汽車有限公司(以下、東風Honda)、2005年には輸出専用工場として本田汽車(中国)有限公司が生産を開始し、市場の拡大に応じて着実に成長を続けてきました。これからも市場の拡大が予測される中国でのHondaの取り組みをご紹介します。

Honda初の中国専用車の開発

Hondaは2012年4月に中国事業における

中期戦略を発表し、現在、商品力の強化、研究開発の強化、生産能力の拡大などの取り組みを進めています。特に商品力の強化では、2013年



常務執行役員 中国本部長
倉石 誠司



(上)Honda初の中国専用車
「CRIDER」
(下)快適さと広さを実現した
「CRIDER」のインテリア



から2015年までの3年間で新機種とフルモデルチェンジを合わせて12機種の投入を予定しています。拡大する需要、そしてお客様の志向の多様化に対応することで、2013年の販売台数は約76万台に達し、今年はさらに上回るペースで推移しています。

すでに発売している新型車のなかで、ミドルクラスセダン「CRIDER(クライダー 中国語名:凌派)」とコンパクトミニバン「JADE(ジェイド 中国語名:傑徳)」は、中国でのHondaのクルマづくりにおいて、新たな方向性を示しています。

「CRIDER」は、中国人スタッフが主体となり、Honda初の中国専用車として開発しました。龍をモチーフとした躍動感あふれるエクステリアデザイン、力強さと低燃費を両立した動力性能、快適で広い室内空間など、30代の若いお客様を中心に、中国のお客様の志向や感性に強く訴えるモデルとしてつくりあげています。

また、「JADE」は日常生活からレジャーまで多様な乗り方を可能にするモデルとして、セダンが主流の市場に新たな価値を提案しています。カラーやデザインでは、中国で好まれている翡翠をイメージするなど、中国市場をメインに開発し、グローバルを視野に中国から販売開始しています。

常務執行役員で中国本部長である倉石 誠司は、中国市場でのこれからについて、「お客様のニーズをスピーディーにとらえ、新しい価値を提案することがますます重要になる」と語っています。

「中国では世界中の自動車メーカーのさまざまなクルマが走っており、存在感あるクルマでないと埋もれてしまいかちです。また、市場が拡大する一方、お客様の志向もどんどん変化しています。こうした中で『CRIDER』や『JADE』は若いお客様を中心に好評で販売台数も増えています。



(左) 昨年9月に発売した東風ホンダの新型「JADE」
(右上) 2014年北京モーターショーで公開された東風ホンダの
新型「SPIRIOR(スピリア)」のコンセプトモデル
(右下) 昨年マイナーモデルチェンジした
広汽ホンダの自主品牌モデル「理念S1」



います。Hondaはさらに中国のお客様のニーズに応えるクルマ、新しい価値を提案するクルマをお届けすることでHondaらしさを際立たせ、中国におけるブランド価値を高めていきたいと思います」(倉石)

開発、調達、生産の現地化

中国のお客様のニーズに応え、新しい価値をスピード的にお届けするために、Hondaは、開発・調達・生産の現地化を積極的に推進しています。

開発については、モデルの仕様変更にはじまり、広汽ホンダでは自主品牌車の開発、東風ホンダでは自主開発モデルに取り組むことなどにより、開発機能の強化を進めてきました。そして、こうした実績をもとに前述の「CRIDER」では、中国人スタッフを主体とした開発体制を構築するとともに、開発の権限を現地に大幅に移譲

することで、より高いレベルでの現地開発を実現しています。

調達については、現地のサプライヤーからの調達をはじめ、原材料についても現地の力を活かした取り組みを進めることで現地調達率を向上させています。

さらに現地開発が進むことにより、現地調達できる領域は一段と広がっています。たとえば、従来のグローバルモデルをベースとした開発では部品供給できるサプライヤーが限られることがあり、現地調達が難しいこともありました。これに対し、Hondaでは「現地最適図面」という考え方に基づいて、現地で入手可能な部品を前提に開発を進めており、単に調達率を高めるだけでなく、現地調達を質的に向上させることでクルマづくりを刷新しています。

生産については、現在、広汽ホンダの增城工場で第3ラインの建設を進めています。その



(左)今年発売予定のアキュラブランドの
新型車「RLX Sport Hybrid SH-AWD」
(右)中国市場をメインに開発した小型SUVの
グローバルコンセプトカー
「Acura Concept SUV-X」
(下)広汽ホンダの増城工場外観

年間生産能力は12万台で、2015年の稼働開始を予定しています。これにより、中国におけるHondaの年間生産能力は101万台となる見通しです。

新たな現地生産の取り組み

さらなる成長をめざして、Hondaはハイブリッド車とアキュラブランド車についても、現地生産に向けた取り組みを開始しました。

ハイブリッド車については、2007年の「CIVIC Hybrid(シビック ハイブリッド)」を皮切りに、2012年からは「INSIGHT(インサイト)」「CR-Z」「FIT Hybrid(フィット ハイブリッド)」を販売してきました。昨今、CO₂の低減はもとより、PM2.5などの問題から中国においても環境への意識は高まりを見せています。これを背景に、Hondaは中国のお客様にハイブリッド車をお求めやすい価格でお届けするため、2016年の

生産開始を目標にハイブリッド車の現地生産へ向けた準備を進めています。

「ハイブリッド車の普及に向けては、お客様にそのメリットを理解していただくことも大切です。今では多くのハイブリッド車が走る日本でも、お客様に理解していただくことではじめて普及してきた経緯があります。Hondaはお求めやすい価格を実現するための現地生産の体制づくりとともに、さまざまな機関と連携を図りながら、理解促進に向けた取り組みも進めてまいります」(倉石)

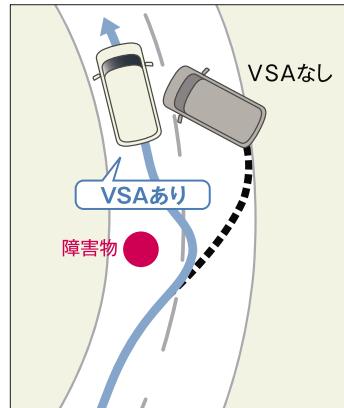
アキュラブランドについては、2016年を目標に現地生産を開始する予定です。最初の量産車には2013年4月の上海モーターショーで発表した小型SUVのコンセプトカー「Acura Concept SUV-X」をベースとしたモデルを予定しており、成長著しい中国の高級車市場での拡大をめざします。

Hondaらしい原点

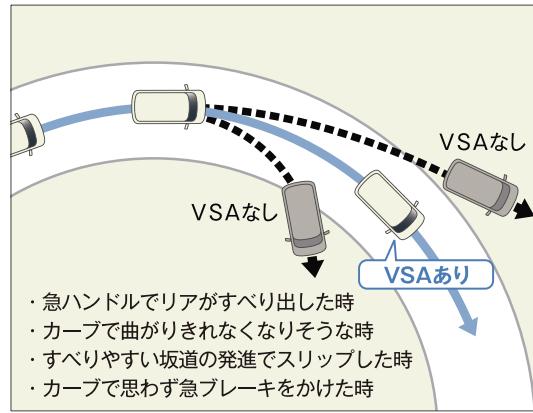
Honda Technology

VSA

Vehicle
Stability
Assist



安心して
運転を楽しんで
いただるために



VSAの作動イメージ図

Hondaは「運転して楽しいクルマつくりたい」という想いとともに、お客様に安心して運転していただくために、安全技術についてもさまざまな研究開発を進めています。車両挙動安定化制御システム「VSA」は、こうした取り組みから生まれた技術の一つです。

VSAは、急ハンドルでリアがすべり出したり、カーブで思わず急ブレーキをかけてしまうことでクルマの挙動が乱れたとき、4輪別々にブレーキをかけたり、エンジンパワーを絞ることでクルマを安定させる装置です。ハンドルの舵角、アクセルとブレーキペダルの操作量や操作スピードなどからドライバーがどのようにクルマを動かしたいかを予測するとともに、車輪速センサーなどでクルマの挙動を把握することなどにより、ブレーキ制御とエンジン出力制御を行いクルマの姿勢を安定

させています。

Hondaは、1997年にVSAを6代目の「ACCORD（アコード）」に搭載して以来、高精度できめ細かい制御ができるよう進化を図りながら、より多くのクルマに搭載できるように開発を進めてきました。そして、つねにドライバーを主役に考え、ドライバーの意思に忠実に違和感のない「アシスト」を行えるようさまざまな路面での走行テストを繰り返し、細かいセッティングを行ってきました。昨年、軽乗用車「N-WGN」が軽自動車として初めて、新・安全性能総合評価で最高の「ファイブスター賞」を受賞^{*1}したこと、Hondaの安全に対する姿勢とこうした取り組みの成果であるといえます。

Hondaはこれからも、より多くのお客様に安心して運転を楽しんでいただけるように安全技術の進化にも積極的に取り組んでいきます。

*1：本誌9ページ参照

Honda Topics

メキシコ新四輪車工場が稼働開始

2014年2月24日

Hondaのメキシコにおける生産販売会社であるホンダ・デ・メキシコ・エス・エー・デ・シー・ブイは、グアナファト州セラヤ市近郊で建設を進めてきた新四輪車工場である第二工場の稼働開始を発表しました。新工場の年間生産能力は20万台で、北米仕様の新型「FIT(フィット)」の生産をはじめ、2014年後半にはスマートSUVの生産を予定するなど、今後さらなる需要の拡大が見込まれる小型車に特化した生産を行います。

新工場は、埼玉製作所寄居工場の最新生産技術を導入し、先進技術による自動化と人の技術・技能を融合させることで高い生産効率を実現しています。さらに部品の現地調達を拡大



新四輪車工場の組立ライン

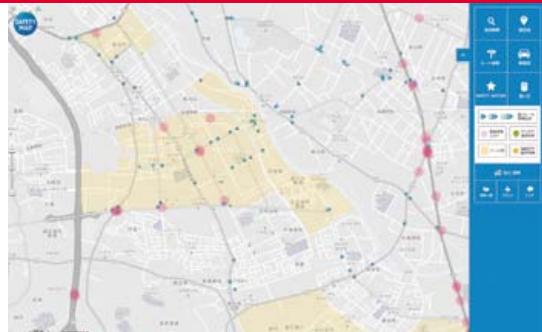
するなど、高品質な製品をお求めやすい価格でお届けする体制を構築しています。新工場の稼働により、Hondaの年間生産能力は192万台に拡大し、北米で販売する主要クラスの基幹車種を北米地域内で生産することになります。

「SAFETY MAP」がATTT^{*1}アワード最優秀賞を受賞

2014年3月12日

Hondaのソーシャルマップ「SAFETY MAP」がモバイル、IT、モビリティーの融合による技術革新によって開発された商品やサービスなどを表彰する「ATTTアワード」で最優秀賞を受賞しました。

「SAFETY MAP」は、インターナビから収集した急ブレーキ多発地点データ、交通事故情報、地域住民などから投稿される危険スポットの情報を地図上に掲載し、地域の住民、学校、企業などの安全活動に活用してもらうことを目的としたソーシャルマップです。自社のビジネスとしてではなく、ユーザーに目を向けた取り組みであり、他社にない新しい取り組みであることが高く評価されての受賞となりました。



(上) パソコン用「SAFETY MAP」のイメージ
(下) 交通安全対策実施前(左)と実施後(右)

*1 : 国際自動車通信技術展(略称:ATTT、主催:国際自動車通信技術展実行委員会)

軽自動車初、新・安全性能総合評価で最高の「ファイブスター賞」を受賞

2014年5月9日

平成25年度自動車アセスメント(JNCAP)*1において、Hondaの軽乗用車「N-WGN」が最高評価となる「新・安全性能総合評価ファイブスター賞」を受賞しました*2。新・安全性能総合評価とは、時速55kmで正面衝突させるフルラップ前面衝突、時速64kmで運転席側を衝突させるオフセット前面衝突、台車を時速55kmで横から衝突させる側面衝突、後面衝突頸部保護性能、歩行者頭部保護性能、歩行者脚部保護性能、シートベルトリマインダーを1☆～5☆で評価するもので、軽自動車として初*3の受賞となります。「N-WGN」は、衝突時の衝撃(G)をコントロールするHonda独自の衝突安全技術「G-CON」をはじめ、渋滞中などで前のクルマとの衝突回避を



N-WGN G・Aパッケージ(FF)と
新・安全性能総合評価ファイブスター賞 受賞ロゴ

支援する「シティブレーキアクティブシステム」、急なハンドル操作による横滑りを抑制する「VSA(車両挙動安定化制御システム)」などの安全装備を充実させています。Hondaはこれからも共存安全による「事故ゼロのモビリティー社会」の実現をめざしていきます。

「スーパーカブ」の形状が日本で立体商標登録認可

2014年5月26日

Hondaの二輪車「スーパーカブ」の形状が、特許庁から立体商標として登録されました(2014年6月6日)。二輪自動車*1としてはもとより自動車業界としても、乗り物自体の形状が立体商標登録されるのは日本初であり、工業製品全般としても極めて珍しい事例となります。

「スーパーカブ」は、1958年の発売から50年以上、機能的な向上を図りつつも、一貫したデザインコンセプトを守り続けたことにより、「デザインを見ただけでお客様にHondaの商品であると認識されるようになったこと」が特許庁の審査で



スーパーカブの立体商標見本

認められました。Hondaはこれからも「スーパーカブ」の基本コンセプトを大切にしながら、世界中のお客様に喜びをお届けしていきます。

*1：特許庁 類似商品・役務審査基準第12類「二輪自動車」

新製品ニュース

CBR650F/CB650F 2014年4月21日発売



NM4-01
NM4-02

2014年4月21日発売
2014年6月10日発売



PCX
PCX150

2014年4月24日発売
2014年5月16日発売



エントリー層からベテラン層まで幅広いライダーの期待に応えるロードスポーツモデル

扱いやすい車体サイズ、そして直列4気筒エンジンの伸びやかな回転フィーリングを堪能できるマシンをめざし、エンジン、車体を新開発。「CBR650F」はスポーティーなフルカウルを採用、「CB650F」はたくましいネイキッドスタイルとしています。

<主要諸元> CBR650F

全長×全幅×全高 (mm):2,110×755×1,145 車両重量 (kg):211
乗車定員 (人):2 エンジン:水冷 4ストローク DOHC 4バルブ 直列4気筒
総排気量 (cm³):648

圧倒的存在感のある独自のスタイリングと新感覚のライディングフィールを追求

「近未来」と「COOL」を開発テーマに設定し、既存の二輪車の枠に捉われない新しいデザインに挑戦した「NM4-01」と、ETC車載器など充実装備の第2弾「NM4-02」。マシンに包み込まれる感覚と味わったことのない操縦フィールを体感できます。

<主要諸元> NM4-02

全長×全幅×全高 (mm):2,380×810<サイドミラー両端幅933>×1,170
車両重量 (kg):255 乗車定員 (人):2
エンジン:水冷 4ストローク OHC 4バルブ直列2気筒 総排気量 (cm³):745

シャープで精悍な印象のスタイリング 人気モデルをフルモデルチェンジ

スタイリッシュな外観と環境性能に優れたエンジンなどで好評のスクーター。「PCX」「PCX150」とも、全灯火器にLED、新設計のフロント・リアカウルを採用するなど、さらにスタイリッシュで高級感のあるスタイリングを実現しています。

<主要諸元> PCX150

全長×全幅×全高 (mm):1,930×740×1,100
車両重量 (kg):131 乗車定員 (人):2
エンジン:水冷 4ストローク OHC 単気筒 総排気量 (cm³):152

汎用ポンプWLシリーズ 2014年4月1日発売



芝刈機HRX476 2014年4月1日発売



低圧LPガス発電機 EU15iGP 2014年6月より LPガス機器事業者に供給開始



お求めやすい価格を実現することで さらに多くのお客様のニーズに対応

田畠の灌漑や各種工事現場での吸・排水作業など、幅広い用途に適したエンジン式の水ポンプです。ライトユース向け汎用製品への搭載を前提に開発した新型汎用エンジン「GP160H」を搭載することでお求めやすい価格を実現しました。

＜主要諸元＞ WL30XH

全長×全幅×全高 (mm):510×385×435 機体質量 (kg):25
最大全揚程 (m):23 最大吐出量 (L/min):1,100
エンジン:空冷4ストローク単気筒OHV 総排気量 (cm³):163
最大出力 (kW [PS]/rpm):3.6[4.9]/3,600
連続運転可能時間 (h) [最大吐出量時]:約1.9

作業者の使いやすさにこだわった 多彩な先進機能を搭載

ハンドルに配置したパドルで芝生の条件に応じた素早い速度調節ができ、パドル角度も作業者の握り方に応じて調節可能。刈芝のグラスバッグへの全収納や後方への放出等、4つの芝管理機能も手軽に切り替えられ、さらに扱いやすくなりました。

＜主要諸元＞ HRX476

全長×全幅×全高 (mm):1,545×530×960 機体質量 [装備重量] (kg):42[43]
エンジン:空冷4ストローク単気筒OHC 総排気量 (cm³):160
最大出力 (kW [PS]/rpm):3.3[4.5]/3,600 刈幅 (mm):約470
刈り高さ調節幅 (mm):約25～約79[7段調節] 収納袋容量 (L):69

プロパンガスを使用する家庭や 企業、自治体の防災ニーズに応えて

広く一般家庭のガス機器で使用され、放置劣化が少ないプロパンガスを燃料にすることで、停電などの非常時にワンタッチで接続して使えるポータブル発電機。長時間^{*1}の使用も安心かつ簡単に行えます。

*1 : LPガス50kg使用時で約74時間の使用が可能

＜主要諸元＞ EU15iGP

全長×全幅×全高 (mm):512×290×425
機体質量 (kg):21 排気量 (cc):98.5
定格出力 (交流/直流):100V-1500VA/12V-8V(12Vバッテリー充電専用)
使用燃料:i号プロパンガス(低圧) 使用温度範囲 (°C):-15～40
運転時間 (h):約74(定格負荷) 並列運転:可

第90回定時株主総会のご報告



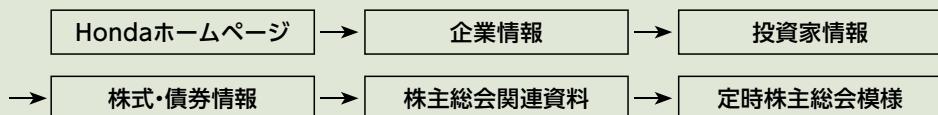
取締役社長 伊東 孝紳



専務執行役員 山本 芳春

Hondaは、6月13日、東京・港区のホテル グランパシフィック LE DAIBA(ル・ダイバ)において第90回定時株主総会を開催し、1,885名の株主様にご参加いただきました。はじめに第90期の監査報告、事業報告を行った後、「剰余金の配当の件」「取締役13名選任の件」の2議案を審議し可決いたしました。また、現在および今後の事業活動について、株主様により深くご理解いただくため、取締役社長の伊東 孝紳と、研究開発を担当している取締役の山本 芳春が、「ものづくりの進化」「地域の自立化」「Honda独自の技術開発」の3つの観点から説明を行いました。以下、その概要についてご紹介いたします。

Hondaのホームページで第90回定時株主総会の模様をご覧いただけます
<http://www.irwebcasting.com/20140613/1/index.html>



QRコード

スマートフォンやタブレットなどから、右のQRコードを読み取ってアクセスすることもできます
QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です

ものづくりの進化

伊東 「ものづくりの進化」とは、ものづくりの主要機能である開発・購買・生産を地域ごとに一つにまとめた組織体制とする取り組みで、これに

より、お客様に近い現場で、迅速な意思決定ができる組織をめざしています。二輪では、2010年、熊本製作所に開発部門を設置したことで、研究所が設計した図面を生産に移す際に生じる問題や課題を全員が即座に共有し、迅速に解決できる



ようになりました。そしてグローバルでご好評をいただいている大型スポーツモデル「NCシリーズ」など、競争力のある商品を生み出しています。四輪では、2012年に鈴鹿製作所に開発・購買、品質部門を集結させ、生産現場で一体化した体制をつくることで、新たな軽ラインアップを担う「Nシリーズ」を生み出しています。この体制は、埼玉製作所や海外へも水平展開しており、今後、全社的に加速させていきます。

地域の自立化

伊東 「地域の自立化」とは、各地域でのものづくり機能を強化して、地域特性に基づいた独自のものづくりを可能とする取り組みです。すでに取り組みが進んでいる北米地域では、派生車種の現地開発に始まり、現在では「CIVIC(シビック)」などのグローバルモデル、次世代スポーツカー「NSX」を開発するまでに成長しており、世界各地に

(左上)ものづくりの進化に向けた組織のイメージ
(右上)ものづくりの進化を代表する新たな軽ラインアップ「Nシリーズ」
(左下)アジア市場向けに開発し、タイで販売している新型コンパクトセダン「BRIO AMAZE(プリオ アメイズ)」

輸出するまでになっています。中国では、お客様の好みに適した商品を提供するため、中国専用車を開発、投入できる現地開発・生産体制を整えました。昨年発売し、販売が好調なミドルクラスセダン「CRIDER(クライダー)」はその成果のひとつであり、市場を上回る伸びを達成するけん引役となっています。アジアでは、アジア地域専用の小型車として開発した「BRIO(プリオ)」のプラットフォーム(車台)を活用し、国ごとに異なるお客様のご要望に応えるさまざまなモデルを展開して、各国で販売を大幅に伸ばしています。

二輪でも、各国のお客様の好みを徹底的にリサーチして開発に反映し、現地で生産・販売するという自立したビジネスを進めています。2010年に合弁事業を解消したインドでは、自主自立に向けてHonda独自の販売網、生産体制の拡充に取り組むことで、生産能力、販売台数ともに2010年当時の3倍となる成長を実現しています。このように、



(左上)高いFUN性能と環境性能を両立した「SPORT HYBRID」シリーズ
 (右上)安全への取り組みのロードマップ
 (左下)「HondaJet」量産1号機の初飛行の様子
 (右下)開発中の「歩行アシスト」の装着例

各地域の自立化をいっそう高めることでHondaの競争力を強化し、眞のグローバルカンパニーとして存在価値をさらに高めていきます。

Honda独自の技術開発

山本 二輪では、この4月、圧倒的存在感のある独自のスタイリングと新感覚のライディングフィールを追求した新コンセプトモデル「NM4」を発売しました。新興国では、重視される燃費性能を低コストで向上させる燃料噴射装置を開発し、多くの車種に展開しています。また、前後輪を一つのレバーで制御できる前後輪運動ブレーキシステムやスリップを防止する高性能なブレーキシステムABSの適用拡大を進めるなど、リーディングカンパニーとしてデザイン、先進技術、安全・環境技術で他社に先駆けていきます。

四輪では、安全・環境性能に優れ、運転して楽しいFUNが際立つように開発を進めています。新型

「ACCORD(アコード)」に搭載した「SPORT HYBRID i-MMD」のエンジンでは、39%という世界最高レベルの熱効率を達成しました。さらに究極の環境車である燃料電池電気自動車の開発も進めており、「FCXクラリティ」の後継モデルを2015年に発売する予定です。安全については、衝突安全からぶつからないクルマ、さらにはインフラと協調した自動運転へと研究を進めています。

汎用では、事業の理念である「役立つ喜び」を際立たせることをめざして開発に取り組んでいます。「除雪機」では、最新技術であるハイブリッドシステムの搭載、操作性を向上させた商品ラインアップの展開により、日本国内でトップメーカーとなっています。

この他にも、「HondaJet」や「ASIMO」のロボット技術を応用した「歩行アシスト」などについても積極的な取り組みを進めています。

株主様へのお知らせ

※一单元(100株)以上保有の株主様が対象です。

2015年 Hondaカレンダーのご案内

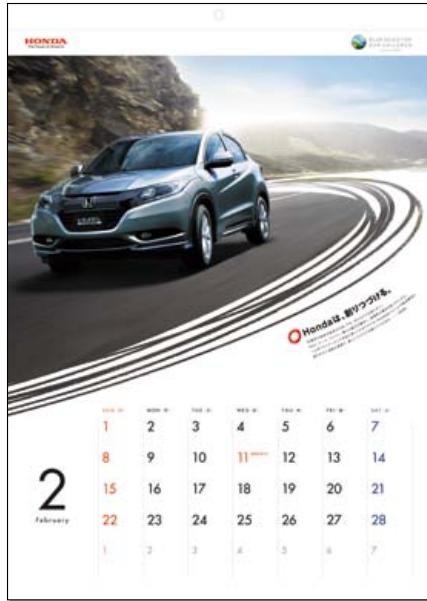
来年2015年のHondaカレンダーをご希望の株主様1名につき1部(1種類)お送りいたします。以下の応募要領をご確認の上、お申し込みください。

Honda カレンダー (見開き A3 サイズ)

1月
(イメージ)



2月
(イメージ)



※写真は見本です。デザインを一部変更する場合もございますのでご了承ください。

《応募要領》

- 同封の応募ハガキをご郵送ください。

《応募締切日》

- 2014年10月3日(金)(当日消印有効)

《カレンダー発送》

- 12月上旬から順次発送いたします。(株主様1名につき1部・1種類)

お届け先は2014年6月末時点の株主名簿記載の住所(本誌配送時の住所)とさせていただきます。
転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

- 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先:「Hondaカレンダー」係 電話 03-6743-3226 (平日9:00~17:00 土・日・祝日を除く)

※一单元(100株)以上保有の株主様が対象です。

2014年度 株主様ご視察会～①工場見学会のご案内

株主の皆様にHondaの事業活動をより一層ご理解いただきたく、工場見学会を開催しております。参加をご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

開催場所	開催日・記号	時間	募集人数	生産品目・アクセス
鈴鹿製作所 (三重県鈴鹿市)	2014年 11/19(水) A 11/20(木) C B D	●午前の部 8:55～10:45頃 ●午後の部 13:30～15:30頃	●午前の部 各100名様 ●午後の部 各160名様	●生産品目：四輪車 Nシリーズ 等 ●最寄駅： 近鉄名古屋線「白子駅」送迎バス有り 鈴鹿サーキットに駐車場用意
埼玉製作所 寄居工場 (埼玉県大里郡寄居町)	2014年 12/4(木) E 12/5(金) F	13:30～15:45頃	各80名様	●生産品目：四輪車 フィット 等 ●最寄駅： 東武東上線・JR八高線「小川町駅」 送迎バス有り。駐車場なし
熊本製作所 (熊本県菊池郡大津町)	2014年 12/11(木) G 12/12(金) H	13:30～15:30頃	各100名様	●生産品目：二輪車、汎用製品 ゴールドウイング(GL1800)、CB、CBR、 コーチェネレーションユニット 等 ●最寄駅： 阿蘇くまもと空港、JR豊肥本線「肥後大津駅」 送迎バス有り。熊本製作所に駐車場用意

※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。

※ 每年多数の応募があるため、応募は1コース・参加は株主様ご本人のみとさせていただきます。

※ 各製作所または最寄駅までの交通費は株主様ご本人負担とさせていただきます。

《応募要領》

- ①同封の応募ハガキに、参加ご希望の工場見学会の記号(A～H)のいずれか1つに○をつけてご郵送ください。少しでも多くの方をご招待するため、レース招待との同時応募はできません。
- ②連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。
ご記入いただいた電話番号はご視察会以外の目的では使用いたしません。

《応募締切日》

- 2014年 9月12日(金)(当日消印有効)

《当選時の詳細のご案内》

- 抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。
発送は10月下旬を予定しています。
- お届け先は2014年6月末時点の株主名簿記載の住所(本誌配送時の住所)とさせていただきます。
転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

お問合せ先：「株主様ご視察会」係 電話 03-6743-3226 (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

※一单元(100株)以上保有の株主様が対象です。

2014年度 株主様ご視察会～② レースへのご招待

株主の皆様の日頃のご支援に感謝をこめて、本年10～11月に開催される以下のレース(いずれか1レース)へご招待いたします。チケットをご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

レース名称	レース概要(関連リンク)	開催日	開催場所	募集人数
●2014 FIA 世界ツーリングカー選手権シリーズ 日本ラウンド ●スーパー耐久シリーズ2014	ツーリングカー(市販改造車)によるレース。今回は鈴鹿サーキット初のフルコースでのバトル。 http://www.suzukacircuit.jp/motorsports_s/2014schedule/#wtcc	2014年 10/25(土)・26(日)		
●MFJグランプリ スーパーバイクレースin鈴鹿	国内最高峰の二輪車ロードレース。1リッタースーパースポーツバイク(JSB1000)をはじめ、600ccのJ-GP2など合計4クラス http://www.suzukacircuit.jp/superbike_s/	2014年 11/1(土) 予選 ・2(日) 決勝	鈴鹿 サーキット ※自由席	2,000組 4,000名 ※大人2名、他に高校生以下3名まで無料で入場可
●全日本選手権 スーパーFオーミュラ 第7戦	オープン・シングルシーターのフォーミュラカーによる自動車レース。エンジンは排気量2,000cc、直列4気筒直噴ターボ http://www.suzukacircuit.jp/superformula/	2014年 11/8(土) 予選 ・9(日) 決勝		
●もてぎGT250kmレース	エンジンパワーが約500馬力のGT500クラスと約300馬力のGT300クラスのツーリングカーレース http://www.twinring.jp/supergt_m/	2014年 11/15(土) 予選 ・16(日) 決勝	ツインリンク もてぎ ※自由観戦エリア	

※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。

※ 上記4レースのうち、いずれか1つのレースを選んで観戦できます。

※ 各レース会場までの交通費・各レース会場の駐車料金は株主様ご本人負担とさせていただきます。

《応募要領》

- 同封の応募ハガキ(工場見学会用と共に)の「レース招待」(I)に○をつけてご郵送ください。

少しでも多くの方をご招待するため、工場見学会との同時応募はできません。

《応募締切日》

- 2014年9月12日(金)(当日消印有効)

《当選時の詳細のご案内》

- 抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。

発送は10月上旬を予定しています。

- お届け先は2014年6月末時点の株主名簿記載の住所(本誌配送時の住所)とさせていただきます。

転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

- 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先：「株主様ご視察会」係 電話 03-6743-3226 (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

2014年度

第1四半期の決算概要

2014年4月1日～2014年6月30日

業績ハイライト(連結)

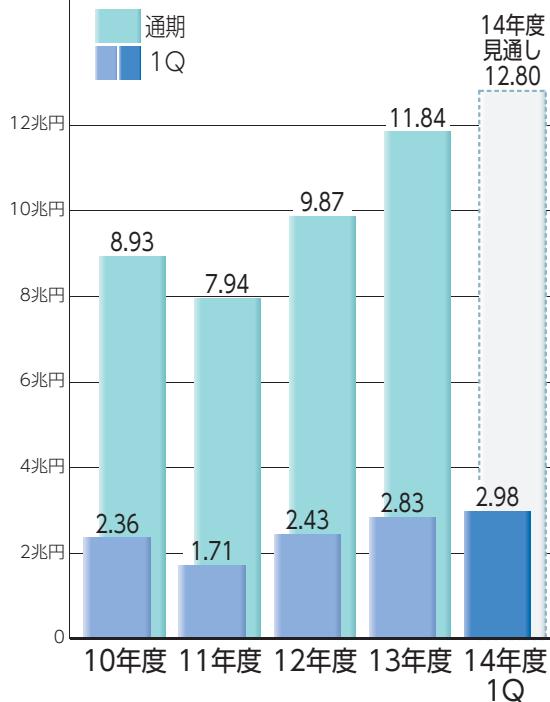
【売上高】5.4%増収(前年同期比)

- ・四輪事業や二輪事業の売上高の増加、為替換算による売上高の増加影響など

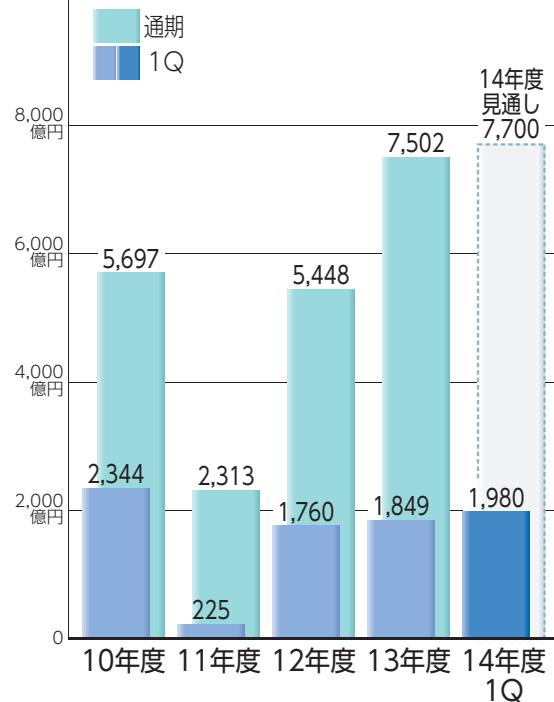
【営業利益】7.1%増益(前年同期比)

- ・コストダウン効果や売上変動及び構成差に伴う利益増など

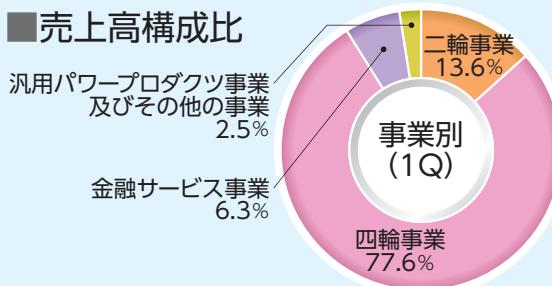
売上高(兆円)



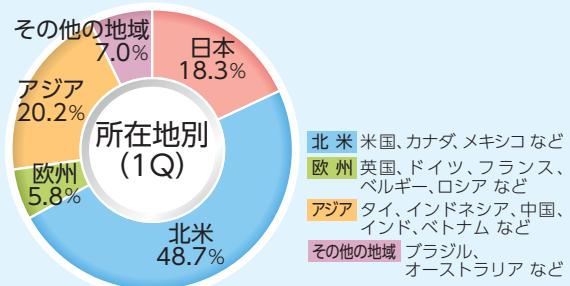
営業利益(億円)



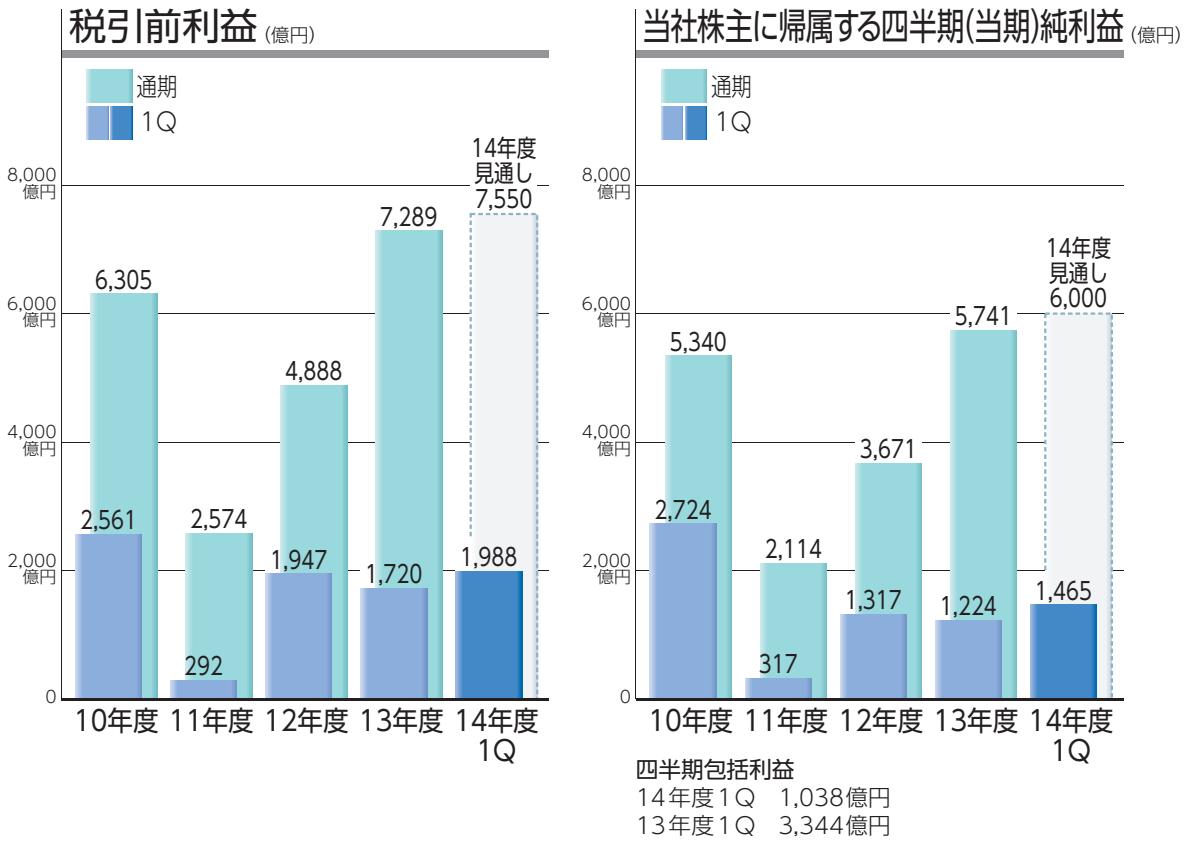
■売上高構成比



所在地別(1Q)



(注) 売上高は外部顧客に対する売上高を表示しています。



※為替(売上)レート

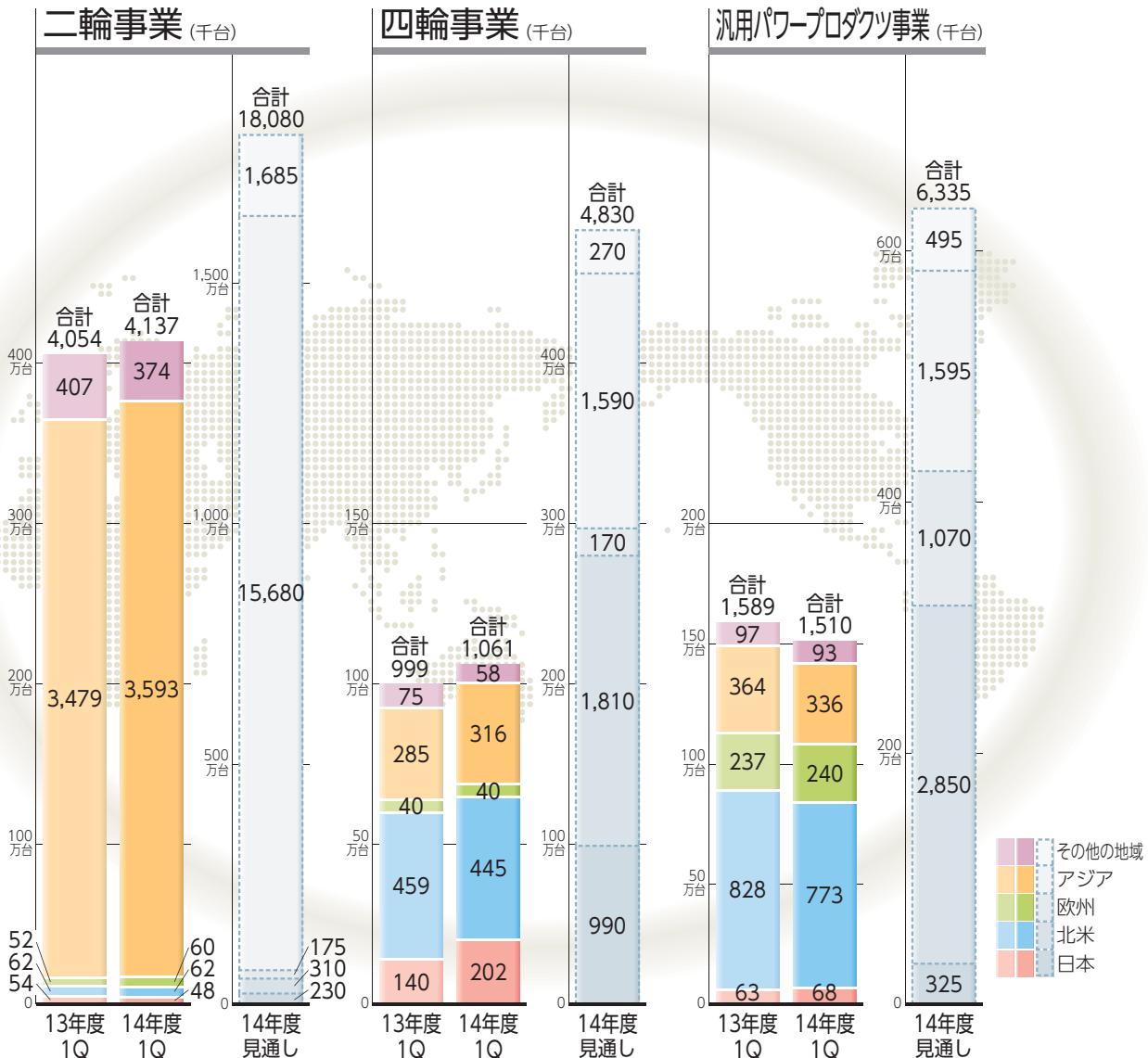
	2010年度				2011年度				2012年度				2013年度				2014年度			
																	連結累計期間(3ヵ月間)			
1 米ドル	86円				79円				84円				100円				102円			101円 (見通し)
1 ユーロ	114円				108円				108円				136円				140円			136円 (見通し)

※配当金

区分	2010年度				2011年度				2012年度				2013年度				2014年度			
	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間
配当金	12	12	15	15	54	15	15	15	15	60	19	19	19	19	76	20	20	22	82	22 (予想)

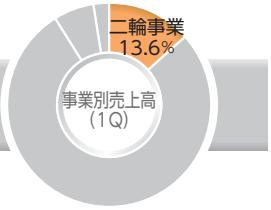
※業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域をとりまく経済情勢、市場の動向、対米ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

Hondaグループ販売台数

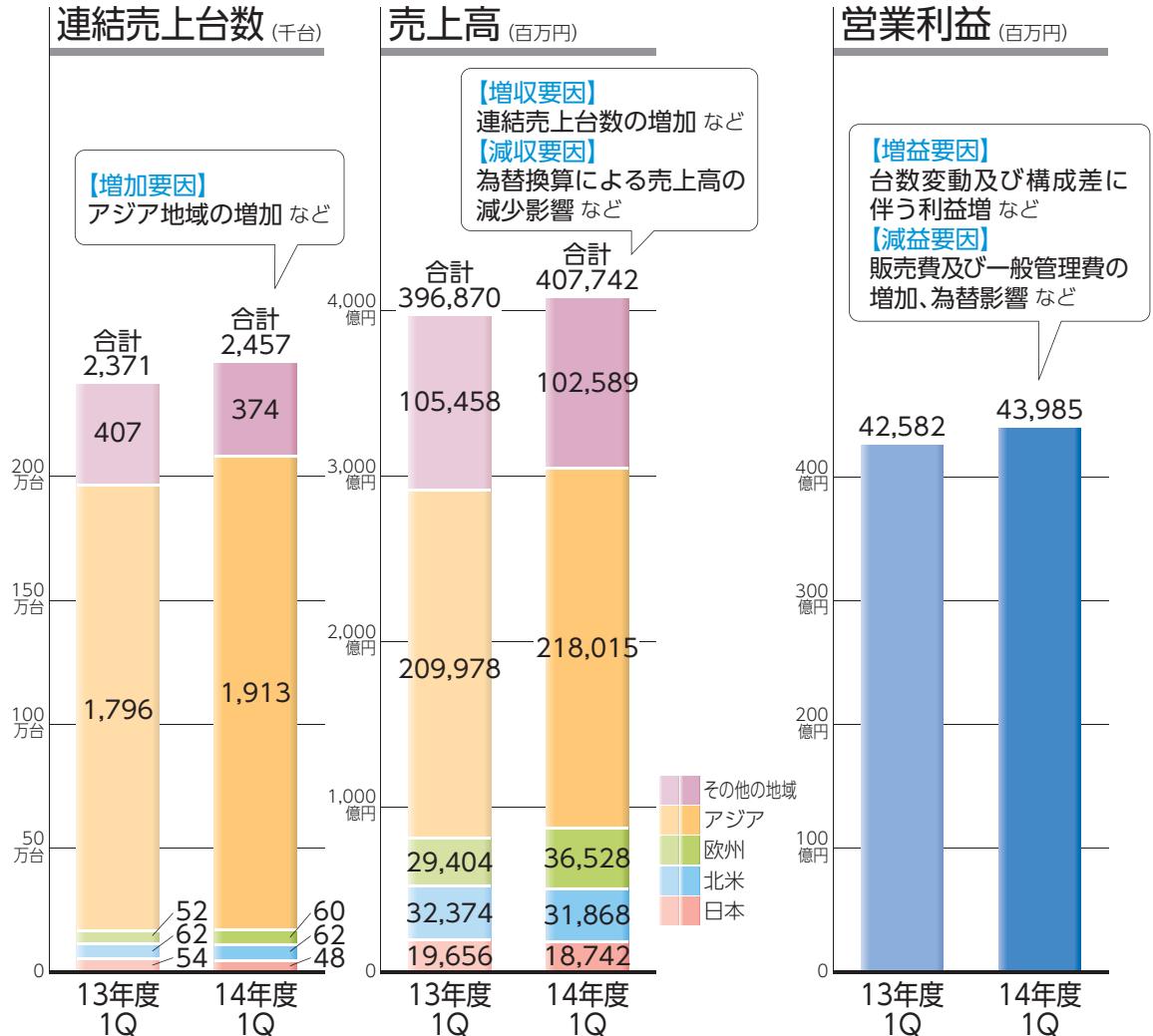


- (注) 1. Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車(二輪車・ATV・四輪車・汎用パワープロダクツ)販売台数です。
2. 二輪事業に含まれているATVのHondaグループ販売台数は、2013年度1Qおよび2014年度1Qにおいて、それぞれ21千台、22千台です。

事業の種類別セグメントの状況

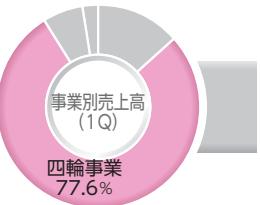


二輪事業 (二輪車、ATV、関連部品)



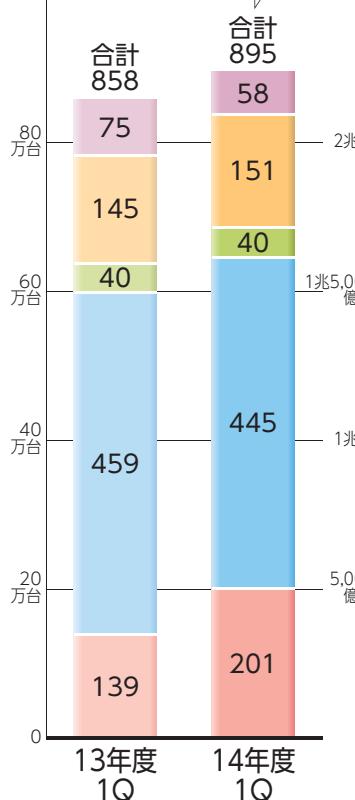
- (注) 1. 連結売上台数は、連結売上高に対応する二輪車およびATVの完成車販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。
2. 二輪事業に含まれているATVの連結売上台数は、2013年度1Qおよび2014年度1Qにおいて、それぞれ21千台、22千台です。

四輪事業 (四輪車、関連部品)



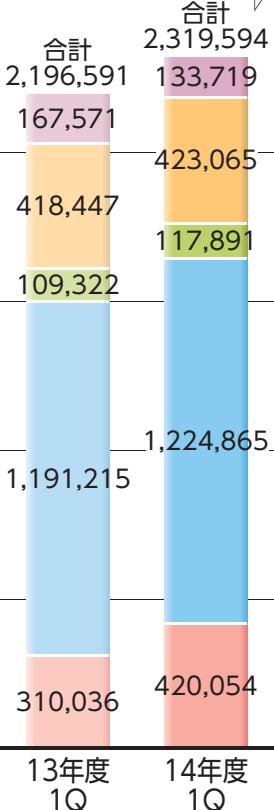
連結売上台数 (千台)

【増加要因】
日本およびアジア地域の
増加など



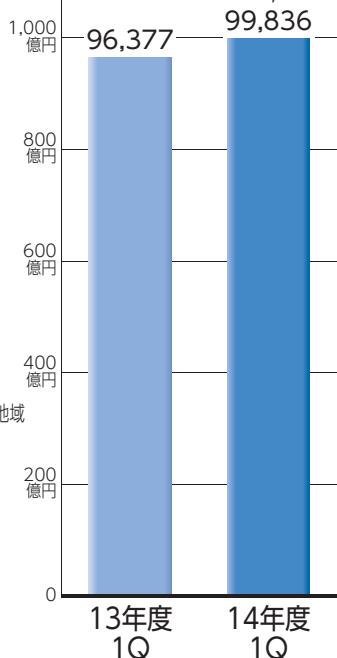
売上高 (百万円)

【增收要因】
連結売上台数の増加、
為替換算による売上高の
増加影響など



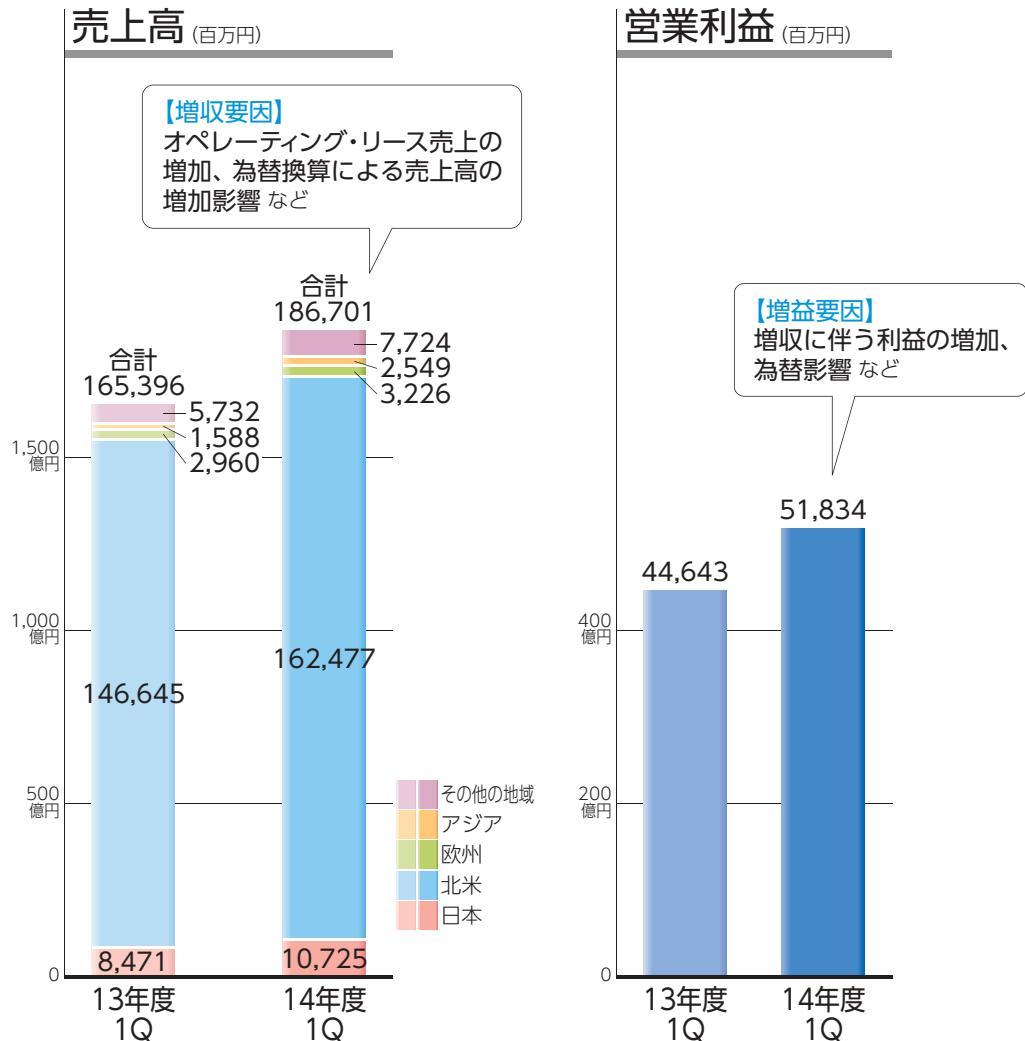
営業利益 (百万円)

【増益要因】
コストダウン効果、台数
変動及び構成差に伴う
利益増など
【減益要因】
販売費及び一般管理費の
増加など



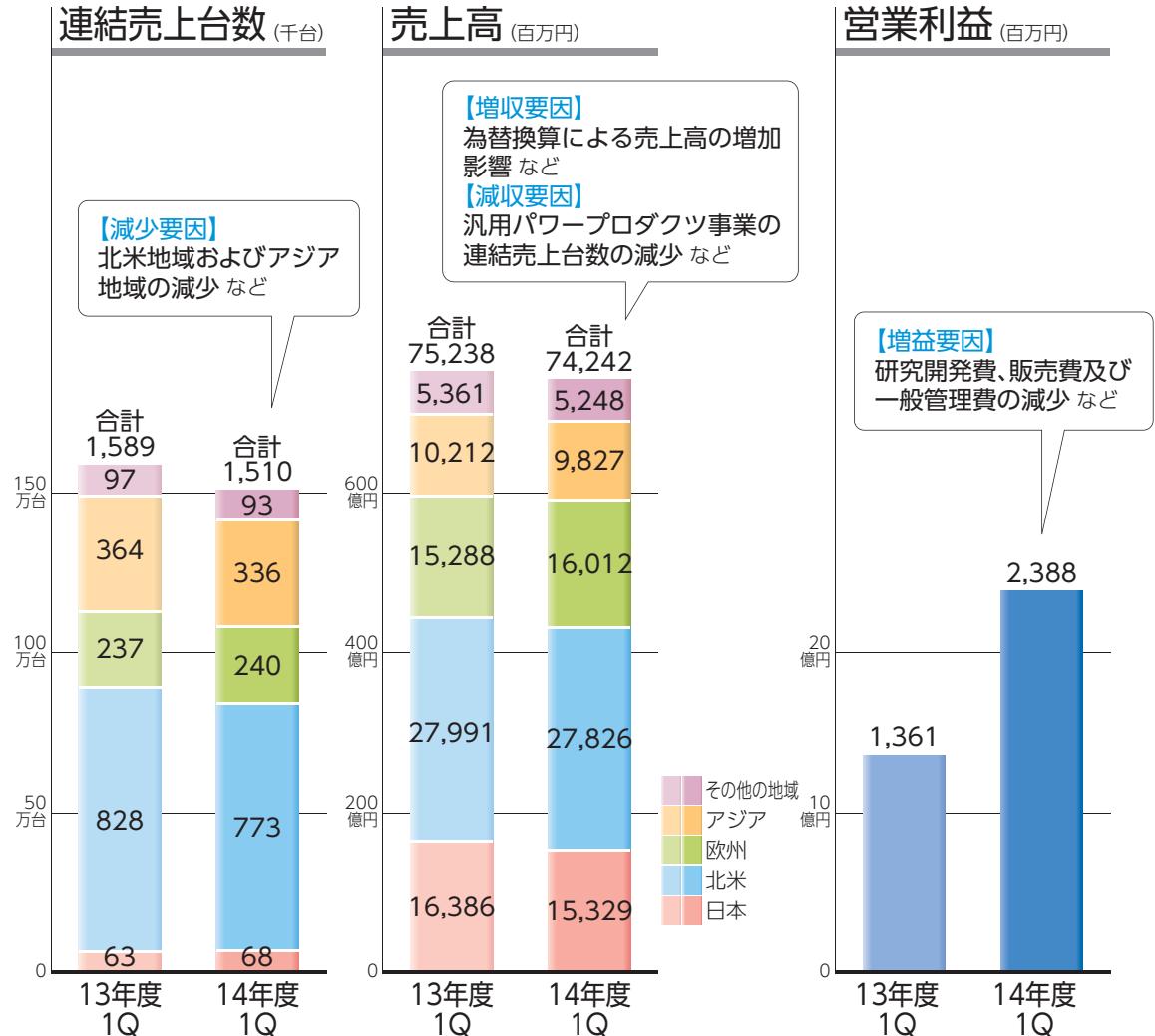
(注) 連結売上台数は、連結売上高に対応する四輪車の完成車販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

金融サービス事業 (金融、保険)



事業別売上高
(1Q)

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業 (汎用パワープロダクツ、関連部品、その他)

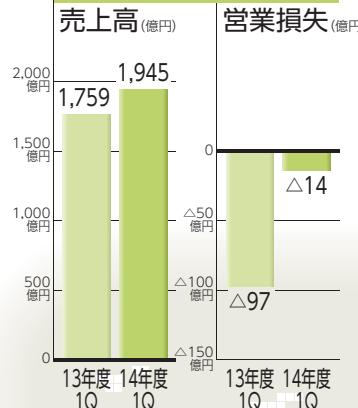


(注) 連結売上台数は、連結売上高に対応する汎用パワープロダクツ販売台数であり、当社および連結子会社の汎用
パワープロダクツ販売台数です。なお、当社は、汎用パワープロダクツを販売している持分法適用会社を有しない
ため、汎用パワープロダクツ事業においては、Hondaグループ販売台数と連結売上台数に差異はありません。

所在地別セグメントの状況

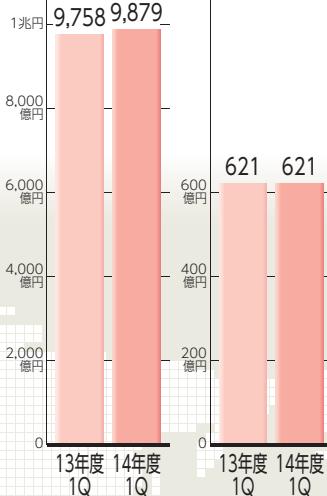
欧洲

英国、ドイツ、フランス、ベルギー、ロシア など



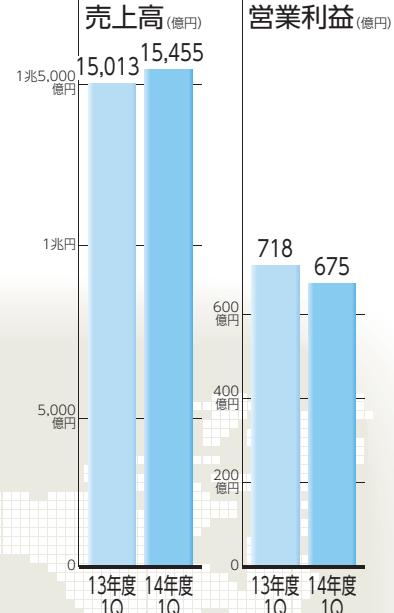
日本

売上高 (億円) 営業利益 (億円)



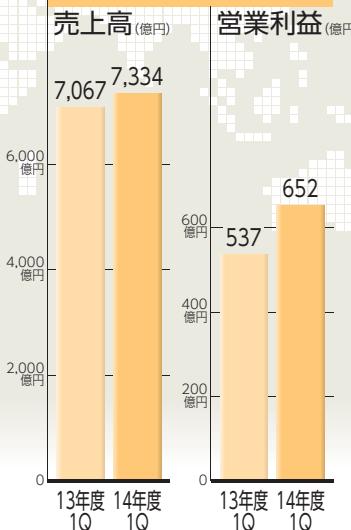
北米

米国、カナダ、メキシコ など



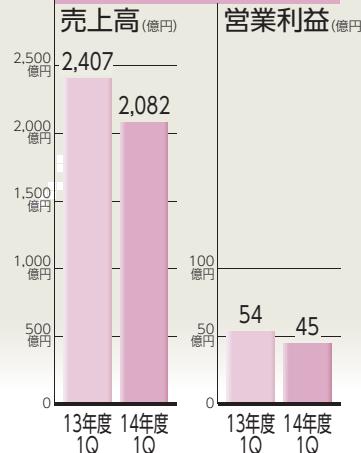
アジア

タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など



その他の地域

ブラジル、オーストラリア など



(注) 売上高は、外部顧客および他セグメントへの売上高を含めて表示しています。

四半期連結財務諸表の概要

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (2014年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2014年6月30日)
(資産の部)		
流動資産	5,771,266	5,560,384
金融子会社保有長期債権	3,317,553	3,292,260
投資及び貸付金	817,927	857,832
オペレーティング・リース資産	2,236,721	2,312,399
有形固定資産	2,818,432	2,805,481
その他の資産	660,132	659,465
資産合計	15,622,031	15,487,821
(負債の部)		
流動負債	4,711,329	4,591,845
長期債務	3,234,066	3,204,962
その他の負債	1,563,238	1,522,845
負債合計	9,508,633	9,319,652
(純資産の部)		
当社株主に帰属する株主資本	5,918,979	5,978,012
非支配持分	194,419	190,157
純資産合計	6,113,398	6,168,169
負債及び純資産合計	15,622,031	15,487,821
株主資本比率	37.9%	38.6%

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間 (自 2013年 4月 1日 至 2013年 6月 30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2014年 4月 1日 至 2014年 6月 30日)
売上高及びその他の営業収入	2,834,095	2,988,279
売上原価	2,124,409	2,238,262
販売費及び一般管理費	383,061	408,840
研究開発費	141,662	143,134
営業利益	184,963	198,043
受取利息	5,992	5,152
支払利息	△2,974	△4,413
その他(純額)	△15,946	31
税引前利益	172,035	198,813
法人税等	70,839	81,796
関連会社持分利益	31,767	38,588
控除：非支配持分損益	10,464	9,093
当社株主に帰属する四半期純利益	122,499	146,512
基本的1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	67円97銭	81円29銭

四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間 (自 2013年 4月 1日 至 2013年 6月 30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2014年 4月 1日 至 2014年 6月 30日)
非支配持分損益控除前四半期純利益	132,963	155,605
その他の包括利益(△損失)(税引後)		
為替換算調整額	189,546	△55,326
売却可能な有価証券の 正味未実現利益(△損失)	8,694	8,284
デリバティブ商品の 正味未実現利益(△損失)	587	—
退職年金及び その他の退職後給付調整額	2,685	△4,726
その他の包括利益(△損失)合計	201,512	△51,768
四半期包括利益(△損失)	334,475	103,837
控除：非支配持分に帰属する 四半期包括利益	18,975	5,152
当社株主に帰属する 四半期包括利益(△損失)	315,500	98,685

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間 (自 2013年 4月 1日 至 2013年 6月 30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自 2014年 4月 1日 至 2014年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	304,190	354,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△498,171	△387,550
財務活動によるキャッシュ・フロー	81,044	△18,092
為替変動による現金及び 現金等価物への影響額	46,009	△10,296
現金及び現金等価物の純増減額	△66,928	△61,267
現金及び現金等価物の期首残高	1,206,128	1,168,914
現金及び現金等価物の四半期末残高	1,139,200	1,107,647

株主様へのご案内

株式のご案内

事 業 年 度：毎年4月1日から翌年3月31日まで
基 準 日：定時株主総会の議決権 毎年3月31日
期 末 配 当 每年3月31日
第1四半期末配当 每年6月30日
第2四半期末配当 每年9月30日
第3四半期末配当 每年12月31日

定時株主総会：毎年6月

単元株式数：100株

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関：
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先：東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(〒168-0063)
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

公告の方法：電子公告により行います。
ただし、事故その他、やむを得ない
事由により電子公告による公告を
することができない場合は、東京都に
おいて発行する日本経済新聞に掲載
して行います。

[公告掲載URL]

<http://www.honda.co.jp/investors/>

証券コード：7267

住所変更、配当金のお受け取り方法の
指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主様の口座がある証券会社等にお申し出
ください。

※特別口座に株式が記録されている場合は、
三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
☎ 0120-782-031

会社の概要

社 名：本田技研工業株式会社
英 文 社 名：HONDA MOTOR CO., LTD.
本 社：東京都港区南青山二丁目1番1号
(〒107-8556)
設立年月日：1948年(昭和23年)9月24日
資 本 金：86,067,161,855円(2014年6月30日現在)
主 な 製 品：二輪車・四輪車・汎用パワー・プロダクツ

ウェブサイトのご案内

インターネット上にIRに関するウェブサイトを
開設し、最新の決算情報やアニュアルレポートを
はじめとするさまざまな情報をご案内しています。

[日本語] <http://www.honda.co.jp/investors/>
[英 語] <http://world.honda.com/investors/>

Hondaウェブサイトからご覧になる場合

ホンダ 検索

検索サイトで、「ホンダ」または「honda」と入力して検索し、Hondaのトップページを開いてください。

IR・投資家情報 をクリックする。

トップページ

投資家情報ページ

株主様専用ダイヤル カレンダー・ご視察会のお問合せ専用

※カレンダー・ご視察会のご応募は、2014年6月末時点で
一単元(100株)以上保有の株主様が対象です。

※カレンダーは12月上旬に発送いたします。

03-6743-3226

(平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

HONDA

The Power of Dreams

人々と共に夢を求める、夢を実現していく。

夢があるから、その実現へ向け、チャレンジする勇気と力が生まれます。

私たちHondaは、一人ひとりが抱いている

「こんなものがあれば、もっと楽しくなりそうだ」「もっとワクワクできるに違いない」という
夢を原動力に、二輪車、四輪車、汎用製品、部品、さらにはそれらを超えた分野で
新しい喜びを、世界中の人々に向けて、提案していきます。

株主通信

株主通信／2014年8月発行 No.162(年4回発行)

発行所／本田技研工業株式会社 〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1 発行人／安田 史郎

表紙の写真：NM4-01

